

ハローキャリアワーク通信1号

令和6年2月11日、世田谷区立中央図書館で「大好きな本をおたのしみ袋にして紹介しよう！」のワークが行われ、小学1年生から3年生までの子どもたちが10名参加しました。

始めに、参加する子どもたちが自己紹介をしてから、「図書館はみなさんがたくさんの本と出会う場所です。今日は、図書館職員になったつもりで働きましょう」と、中央図書館の吉田さんより本日の流れの説明がありました。

最初のワークは図書館内の見学です。林さんの案内のもと、まずは、みんなも見たことのある図書館の内側から。

1階の貸出カウンターや自動貸出機の紹介の後に、たくさんの本棚が並ぶ地下1階へ行きました。「開館前に図書館職員が1階と地下1階の全ての本棚の整理をしています」と林さんが言うと、「えー！」と子どもたちが驚きの声をあげました。



開館時間までに整理が終わるように、その日出勤している職員全員でとりかかるそうです。

次に図書館利用者の調べもののお手伝いをするレファレンスコーナーの紹介があった後に、普段は入れない図書館のヒミツの場所「保存庫」へ行きました。区内に1冊しかない本などが保存してある場所です。

階段を下へ下へと降りていくと、地下の保存庫には、人が通れる場所ギリギリまで本棚が並んでいます。本棚同士がくっついた移動書架のスイッチを林さんが押すと、本棚が動いて中の本が取れるようになりました。「すごーい」「ヤバイ」と子どもたちは仕掛けにビックリしていました。



中央図書館には、表に出して貸出している本が「約28万冊」、保存庫で保存している本が「約21万冊」あり、「情報源である本を保存しておくことも図書館の大事な仕事」と説明がありました。

次は「検索機」コーナーです。「使ったことある人は」と聞くとみんなが手を挙げました。「ねずみくん」という言葉を使って、探している本のある場所を探すコツを林さんに教えてもらいました。



1階に戻って、いよいよこどもの本のフロアへ。調べものをする時に役立つ「百科事典のコーナー」、大きな文字や点字の本を集めた「りんごのたな」、悩みがある時のヒントになる本を集めた「SOSコーナー」、一番人気の「昆虫・動物・恐竜の本のコーナー」、ほかにも社会、歴史、趣味、絵本、昔話、外国語の本のコーナーの紹介がありました。

「みんなここで、おたのしみ袋の本を探してもらいます」



さあ、いよいよおたのしみ袋づくりです。こどもの本のフロア案内図が配られ、吉田さんより、「みなさんと同じ年の人に読んでもらう事を想像してください」と説明がありました。おたのしみ袋には3冊の本が入っていて、テーマの紙が貼ってあり、興味のある本に出会うことができます。



早速、こどもの本のフロアへ行って、自分で決めたテーマの本を3冊探しはじめました。好きな作家の本を選んだり、タイトルから探したり、探している本が見つからない時は検索機で調べたり。何セットでも作ってよいと言われていたので、テーマをいくつも考えて、限られた時間の中でたくさんのおたのしみセットを作りました。



みんなでたくさん本を集めて、なんと10セット集めた子もいました。

次は、どんなテーマのセットなのか紙に書きます。テーマは「水の生きもの」。おすすめポイントには、文章ではなく魚の絵を描いて表現していました。テーマの紙が描いたら袋に貼って、本を3冊入れて、カラフルなペンやマスキングテープで飾り付けたらおたのしみ袋の完成です。「スイーツセット」「ねこの本」「じめんセット」「ショートショートの本」「きつねの本」……。次々と作られます。

早く作り終わった子は、まだ完成していない子のおたのしみ袋づくりのお手伝いをして、たくさんのおたのしみ袋が出来上がりました。

最後に、図書館の方から「図書館は大切な本と出合える貴重な場所です。1冊でも多くの本に出合えるように、たくさんイベントもやっているの、ぜひ、図書館に来てください」とメッセージを受けました。

おたのしみ袋は、2月22日(木)より、中央図書館入口すぐのところを出して貸出を始めるそうです。